



歌浦っ子だより (学校だより)

「やさしい心 夢かがやく 歌小の子どもの育成」
平成29年 7月12日 文責:校長 内野義和

「いのちを見つめる強調月間」その後子どもが学んだもの

6月1日(木)朝の全校朝会で、校長講話として、子どもたちに次のことを伝えました。

- ・人は、たくさんの命のおかげで大きくなっている。
- ・自分を大きくしてくれる命に向けた感謝の言葉が「いただきます」。
- ・心は、自分の中に入ってきた命が作ってくれたもの。
- ・自分の心を作ってくれる命に向けた感謝の言葉が「ありがとう」。
- ・「ありがとう」と「いただきます」で、命の大切さを思い出す。
- ・自分が大切に思っていた人が亡くなっても、心の中で生き続けており、それはしあわせなことで、命の大切さを感じることになる。
- ・皆さんの一人一人は、バトンのように受け継がれてきた大切なもの。
- ・人を思いやり、助けていこう。
- ・私たちは一人では生きていけない。友達、家族、地域の人と関わりをもって生きていこう。

その後、道徳の命の学習がありました。全校児童によるいもさがりがありました。5年生の田植えがありました。「あいさつ運動」や「笑顔の集い」がありました。私の思い・考えとしては、先の伝えなかったことをこれらの学習・活動で深めて欲しかったのです。

どの子どももしっかりと学んでくれたようです。その中で、4年生の道徳での学びを紹介します。

「あなたがもつ生きる力」という資料を使った授業でした。資料は、受精から出産までの胎児の成長の様子を語る説明文です。内容は次のようなことです。受精したとき0.25mmだった細胞は、280日後に約50cmくらいの赤ちゃんに成長して出産される。生まれるとすぐ上げる産声には、大きな意味が2つある。1つは赤ちゃんが赤ちゃん自身の力で行うはじめての行為だということ。もう1つには、自分で呼吸をはじめたということ。この2つが生きる力をしっかりとって生まれてきたという証拠になる。

この資料をもとにした道徳の学習で、4年生のある女の子は次のような感想をもちました。

- ・びっくりすることはいっぱいでした。
- ・赤ちゃんはさいしょ0.25mmで、おなかの中で50cmまで大きくなると知り、びっくりしました
- ・生まれるときはお母さんもがんばったけれど、自分も一生けんめいがんばって生まれてきたんだと思いました。

そして最後に、「だからこれからも一生けんめい、いまできることをがんばりたいです」と結んでいます。

そのとおりです。「生きる力をしっかりとって生まれてきた」私たちです。今できることを一生懸命頑張ることが「命を大切にすること」になります。しっかりと学びました。

さて、「いのちを見つめる強調月間」は先月で終わりましたが、「いのち見つめ」は365日すべきだと思っています。強調月間だけ取り組みばよいという考えではありません。今は、平和学習に学校あげて取り組んでいます。戦争の恐ろしさだけでなく、命の大切さを改めて子どもたちは学んでいます。また、先日3年生のスイートコーンの収穫の際に、指導して下さった方が「このスイートコーンも命です。だから食べるときいただきますというのですよ」とおっしゃいました。まさに、「自分を大きくしてくれる命に向けた感謝の言葉が『いただきます』」です。3年生の心に染み入ったように感じました。これからも命の学習を続けていきます。

